

オリンパス外科手術用 3D(立体)内視鏡システム導入



社会医療法人
岡村一心堂病院

よりよい医療を
地域の人々に
岡山市東区西大寺南 2-1-7
Tel 086-942-9900

URL : <http://www.isshin.or.jp/>

E-mail : info@isshin.or.jp

オリンパス外科手術用 3D(立体)内視鏡システム導入

当院では 1992 年に腹腔鏡手術（外科手術用内視鏡）を導入し 22 年になります。

腹腔鏡手術の長所

- ・手術の傷が小さいため術後の痛みが少ない
- ・術後の癒着の合併症も少なくきれい
- ・全身状態の回復が早く、早期リハビリ、早期退院ができる

腹腔鏡手術の短所

- ・特有の合併症が発生することもあり高度な技術と経験が必要
- ・開腹手術よりも手術時間が長くなり、麻酔リスクも大になる

これらの短所は、内視鏡を片目だけで見ている画像になるため、距離感がつかみにくいということから起きています。

この短所をカバーするのが今回導入した『手術用 3D(立体)内視鏡システム』です。

内視鏡本体(ビデオ・スコープ)の先端に高解像度 CCD を右目用/左目用の 2 枚搭載し、それぞれの映像を専用の装置で処理してハイビジョン 3D 用モニタに映し出し、3D 偏光メガネを通して立体観察ができ、これで手術の精度向上と時間短縮ができます。臓器を切開・縫合する時の位置、向きがわかりやすく見え、病変の切除範囲も非常にきれいな立体像で確実に確認できます。

さらに、今回導入したビデオ・スコープの先端は 4 方向 100 度まで曲げられるようになっていますので、手術部位の正面視だけでなく、裏側まで、片手操作で簡便に観察でき、難易度の高い手術でも、術野空間を有効的に活用し、より安全確実迅速に手術ができます。



小さい手術痕



正木裕児副院長

このオリンパス外科手術用 3D 内視鏡システムは、岡大病院と当院とが県下では初（2014 年 1 月）の導入です。正木裕児副院長（日本外科学会/日本消化器外科学会各専門医指導医）が消化器外科で執刀します。